



手をたずさえて

「自分だったらどうするのか」 自分事として考えることが重要

SNS講習会 開催
6/29(土)

6月29日(土)には、第2回授業参観・SNS講習会が開催されました。

参観授業の後に行われたSNS講習会では、一般社団法人「教育のための科学研究所」上席研究員の目黒朋子先生をお招きし、『AI・IoT時代の情報モラル』という演題で講演をしていただきました。

平成29年11月27日に郡山市のビッグパレットふくしまで「ふくしま高校生スマホサミット」が開催され、参加した高校生達によって作られた4つの『ふくしま高校生スマホ宣言』が発表されました。スマホ宣言は、ICTツールがもたらす危険から生徒が自分の身を守るためのルールで、多くのマスコミ等でも取り上げられたものです。

目黒先生のお話はその4つの宣言から始まりました。

- ①『考えて 直接話す 大切さ』
コミュニケーション不足によるトラブルを防ぐ
- ②『いい写真 それは載せてもいい写真?』
写真や言葉を投稿する前に立ち止まって考える
- ③『MYスマホ 親に預けて NO!スマホ』
スマホに依存しすぎて友達や時間を失わない
- ④『SNS 出会いの裏側 SOS』
ネットに潜む危険から自分で自分を守る

目黒先生は、この4つの宣言にそって具体的な事例をまじえながら話を進めていきました。

演題にもある『IoT』(Internet of Things)あらゆるものがインターネットにつながる今、便利ではあるが、様々な個人情報が履歴として残るとともに、つながればネット企業等にデータを取られているという

生活委員長水口君のお礼の言葉



最後に行った保護者対象の講話

現実があること。インターネットへの投稿が、被害者にもするし加害者にもするという。『デジタル・タトゥー』という言葉の通り、インターネットに投稿したものは一生消すことができない。だからこそ、情報発信は自分の将来をよく考え、覚悟をもって行わなければならないということ。『ゲーム障がい(ネット依存)』はWHO(世界保健機関)が病気として認定したこと。情報機器を使用する際には、危機意識をもって、その使用がどのような結果を招くのかを「よく考えること」。

目黒先生のお話には、キーワードとなる大切な言葉がたくさんありました。そして印象に残ったのは、『情報モラルは、ゆりかごから墓場まで』という言葉でした。

そこまで深く考えずに使っていた情報機器ですが、そこには使う者の大きな責任が存在するという事です。

生徒のみんなも真剣な眼差しで講習会に臨んでいました。数多くの学校で講演を行っている目黒先生から、「大勢の生徒達の顔がこちらを向いていて、反応もよかった。」など、講習会への参加態度が素晴らしかったとお褒めの言葉をいただきました。

講習会の運営にあたってくれた生活委員会代表生徒達の感想です。

僕は今回のSNS講習会を通して、インターネットの便利さと恐ろしさ両方と、相手と会って話すことの大切さを改めて実感しました。身振り手振りの表現が伝わり具合「100」だったとき、文字情報だけでは「30」ということを知ったとき驚きました。また、ラインのやりとりの1分以内の間で仲間外れにされる恐怖も分かりました。自分はSNSなどはやっていないし、スマホも持っていないけれど、近い将来持ったり関わったりすると思うので、安易・軽率な行動は控え、一つ一つの情報と向き合って間違った情報に惑わされないようにしたいです。(3年 水口颯太)



目黒先生のお話真剣に聞き入る生徒達



僕は講義の中で改めて情報機器の使用にはルールがあり、守らなくてはいけないことだと思いました。スマホなどの情報は全て正しくはなくて、誤った情報を受け取ることも学びました。また、高校生がつくった「スマホ宣言」はその通りだと思いました。スマホばかりいじって友達とのコミュニケーションが悪くなったり、写真をネットにあげると「足跡」が残ったりするなど、とても勉強になりました。今回の講習会で学んだことをこれからの生活に生かし、誤った行動をしないよう頑張ります。(3年 雨貝陽瑠)

SNS講習会に参加していろいろなことを知りました。インターネットを使うことによって自分のコミュニケーション能力が落ちてしまうこと。SNS上に個人情報をおけることで自分一生を壊す可能性があること。限度がわからなくなって依存してしまうこと。SNSを使っている人には良い人ばかりではなく、悪い人もいるということ。これらのことから、SNSは僕らの娯楽の場でもあれば、一歩間違えたら人生を狂わす危険な場でもあることが分かりました。これからSNSを使う際には、ルールやマナーを守ることが大切だということを肝に銘じていきたいと思います。(2年 田母神 稟)

私は今回初めてSNSの怖さを知りました。コミュニケーション不足でトラブルになったり、拡散の原因、スマホ依存、事件などに巻き込まれる危険性があることに驚きました。インターネットは年齢、性別、性格もごまかせて、だまそうとする大人、ウソの情報を流す人達がいるということも分かりました。もう一つ驚いたことは、ネットは凶器にもなるということ講師の先生が教えてくれました。ひとつの言葉で相手を傷つけてしまう。ネットによるいじめが原因で亡くなってしまっている人がいる、そのようなことはあってはならないことだと思えます。私は今回学んだことをしっかり守りながら、ネットを安全に使っていきたいです。(2年松崎聖奈)



富中伝統の生徒活動～郡山支援学校との交流会

6月27日(木)には富中伝統の生徒活動である「郡山支援学校との交流会」が行われました。本校生徒が学区内にある郡山支援学校を訪問し様々な交流活動を行う「交流会」と支援学校の生徒が本校に來校し授業を一緒に受ける「授業交流」を6月と11月に2回ずつ実施します。今回は60名の福祉委員会の生徒達が支援学校を訪問し、交流を深めました。最初のオリエンテーションでは、支援学校の先生から『なぜ交流会があるのか』や『合理的配慮』などについて教えていただきました。次に、活発な交流になるために『ハンディング・ハンド』の音楽に合わせて、支援学校の生徒と手を合わせました。初めは恥ずかしがっていた生徒達もだんだんと打ち解け、笑顔が多く見られました。その後各クラスに分かれ、ゲームなど様々な交流活動を行いました。同じ中学生として互いを理解するとともに、他者と積極的に関わろうとする姿勢を育ててほしいと思います。



7月12日(金)には、7名の生徒の皆さんが來校します。さらに交流を深めることができるといいですね。

静かな中にキラリと光るものを感じる朗読でした

**NHK杯全国中学校放送コンテスト福島県大会
兼郡山市中学校放送コンテスト 7/1(月)**



7月1日(月)には郡山市立中央公民館にて「NHK杯全国中学校放送コンテスト福島県大会兼郡山市中学校放送コンテスト」が開催されました。本校からは2年高徳小暖さんが朗読部門に出場しました。宮下奈都作『よるこびの歌』の朗読でした。惜しくも入賞は逃しましたが、高徳さんの朗読には静かな中にもキラリと光るものを感じました。2年生ですので、来年度も是非チャレンジしてほしいと思います。お疲れさまでした。

新たな本校職員を紹介します! 事務職員(主事)渡辺誠子さんです



7月2日(火)より富中教職員に新メンバーが加わりました。事務職員(主事)の渡辺誠子さんです。事務室において会計事務や文書管理事務などに携わります。学校の教育活動を陰から支えていただく仕事ですが、生徒のみんなとも関わる場面が出てくると思います。気軽に声をかけてみてください。渡辺さんは笑顔で応えてくれると思います。

保護者の皆様へ 6月29日の ご來校に感謝いたします!

6月29日の授業参観、SNS講習会、学年懇談会へのご参加ありがとうございました。SNS講習会での目黒先生のお話は、大人にとっても具体的でわかりやすく、考えさせられる内容でした。学校でも指導を継続いたします。保護者の皆様のアクションにもご期待申し上げます。

